

Since 1976

横浜市立元石川小学校

令和5年5月31日



学校だより

6月号

HP <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/motoishikawa/>

横浜市青葉区美しが丘4-31-1

TEL 045(902)1821

心をひとつに、心をそろえて

校長 野間 義晴

この間、朝会で履物の話をしました。校内を回っていたら、下駄箱の靴がきれいにそろっていて、さすがだと思いました。ただ入れればよいのではなく、かかとをそろえてきれいにそろえておく。学校に来たなら、下履きである外靴を、学校から帰るときには上履きをきちんと入れていくこと、とても大事なことだと思います。当たり前のようにできていることをうれしく思いました。

「靴がそろろうと、心がそろろう。」とも言われています。靴が散らかっていると心が乱れている。そろっていれば心が落ち着いている。靴をそろえることは、自分自身を見つめることや自分の行いを見つめなおすことでもあると言えるでしょう。気持ちよく学校生活をおくるうえでも、靴をそろえていくことから始めてみることで、ちょっとした一人一人の心がけで、元石川小全体の心がそろうことにつながります。

また、たて割り活動が始まりました。たて割り活動とは、1年生から6年生の児童をすべて含んだ「たて割り班」をつくり、各班に分かれて様々な活動をしていく中で、学年間の横のつながりだけでなく、異学年間のつながり（たてのつながり）を育む活動です。本校では「元小タイム」と称して、異学年の交流を大切にしています。グループごとに教室に集まり、上の学年の子が、優しく声をかけて、お互いに自己紹介をしていました。

たて割り活動では、異学年交流を通して、協力することの大切さやお互いに思いやる心を育てていきます。6年生は、最高学年としての自覚を育て、毎回の活動を通して自己有用感を高め、下の学年の児童は、上級生の思いやりのある行動や優しい声かけを通して、他者との接し方を振り返る場となっていきます。年間を通したいろいろな異学年交流活動によって、人間関係を広めたり深めたりする中で、どの子もよさを生かし、自己有用感を高めていけるのです。異年齢集団で楽しく触れ合ったり、協力して活動に取り組んだりすることができるようになると、そのほかの場面でも主体的に取り組み、学校生活の充実と向上を図ろうとする姿が見られます。

また、学年の異なる代表者で組織される代表委員会の話し合い活動でもこうした姿が活かされています。6年生の代表委員や司会者は、下の学年のことを考えながら、話し合いを進めるようにし、今年度の元小スローガン「心をひとつに助け合い、笑顔あふれるけやきっ子」を決めていました。「心をひとつにするだけでなく、行動をおこすことが大事で、助け合うことで笑顔になるし、笑顔あふれることがみんな笑っていて感じがよい。」という提案理由にもかかわる発言が繋がっていきました。こうした取組が元石川小全体の心をそろえることにつながります。

履物をそろえたり、優しい言葉をかけたりする、ちょっとした行いが互いをつなぎ、「高め合おう つながろう 未来をつくる元石川の子」という学校教育目標につながります。よりよい学校づくりを求めて教職員も心をそろえ、さらなる進化を目指していきます。

このスローガンにむかっているみんな仲良く微笑んでいきましょう
代表委員会より